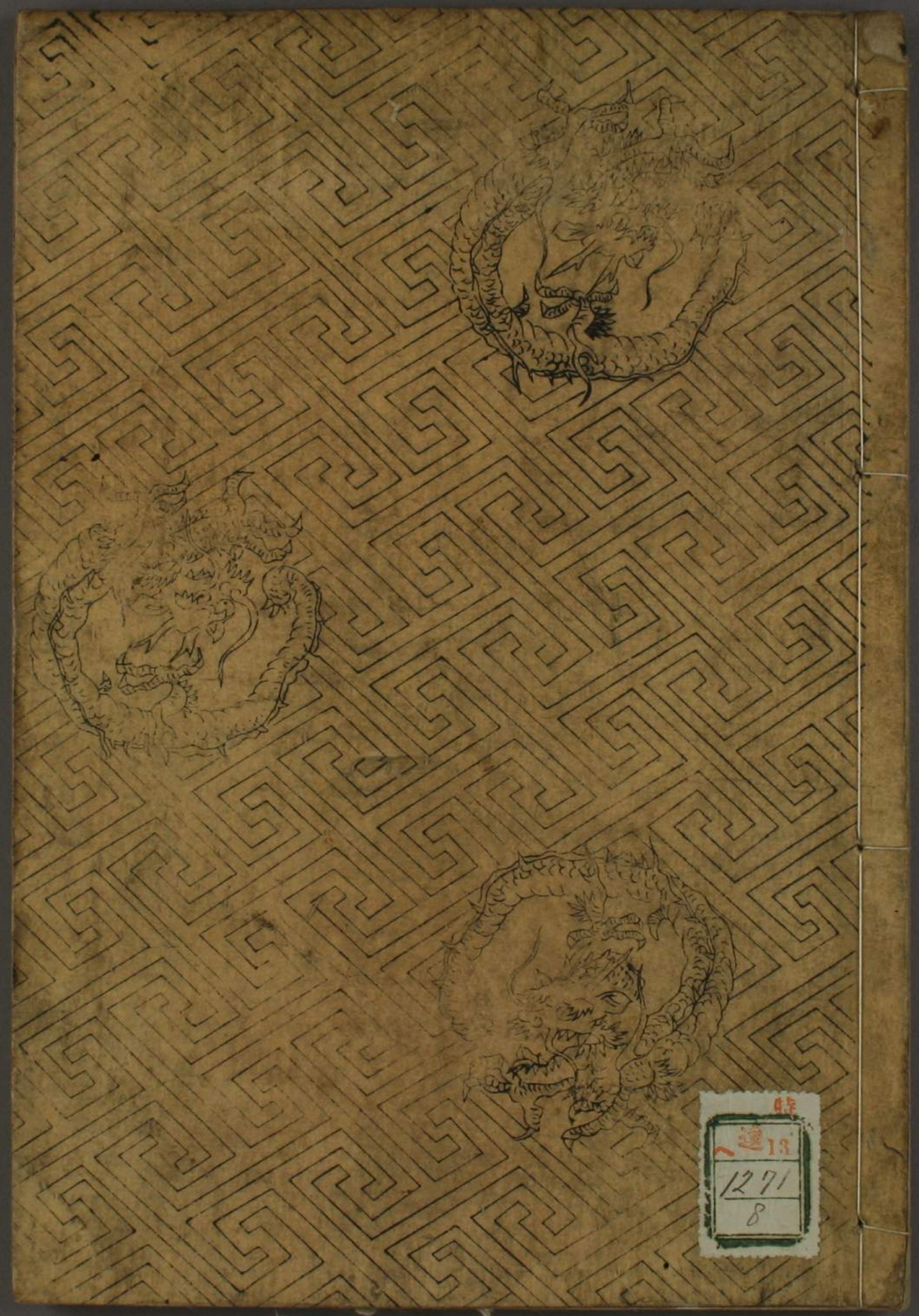


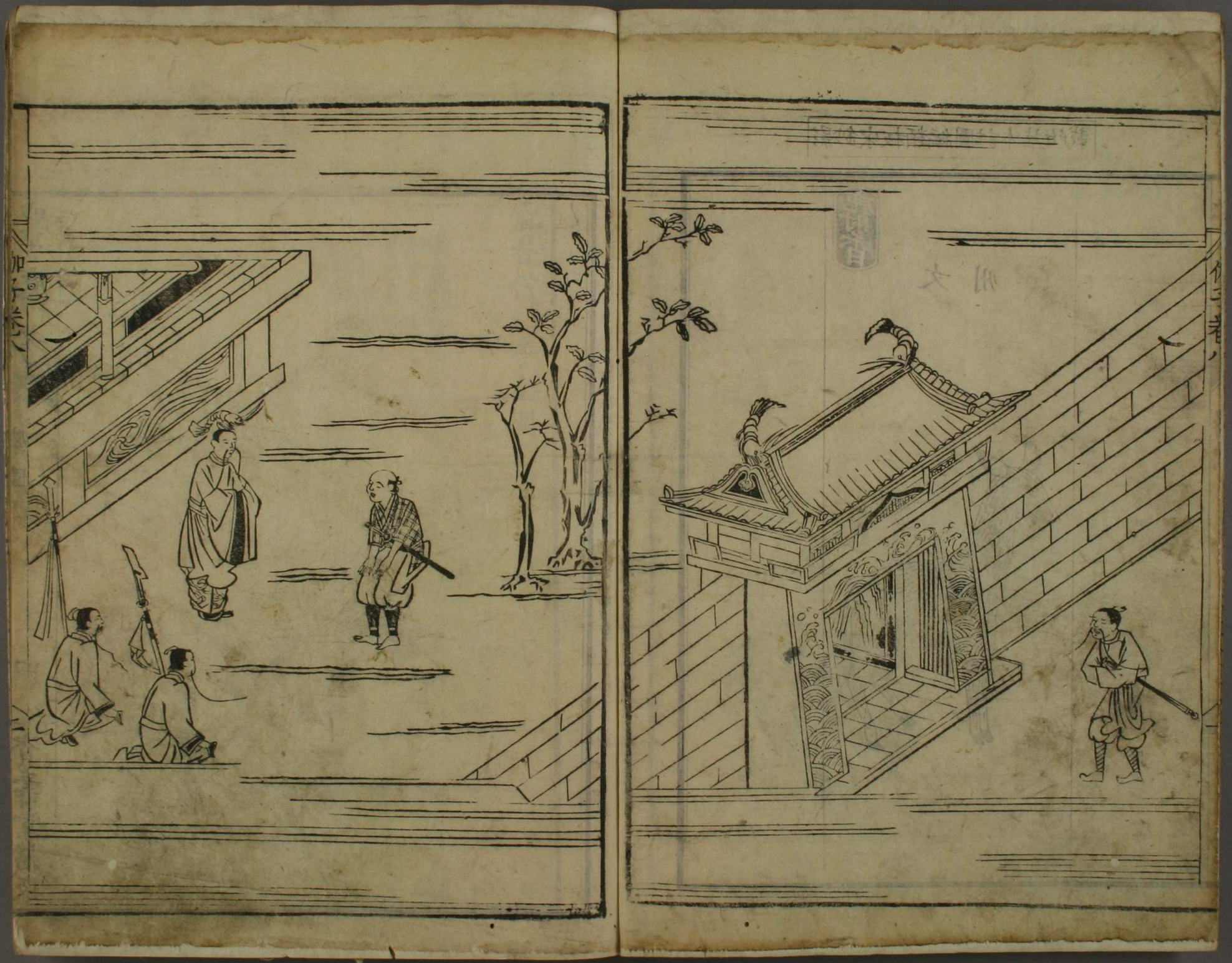
1271
8

1271
8

宮内省圖書寮

長生殘國

越前の國、ゆの庄よりあり。毎年おなじ時分に、海より船、寅と卯の方へ、出帆す。船の中に、麻布・綿・とつりて、昼布・帆・帆・帆



まだ。國を乃手城へ出ぐ
く石ゐいろづり立てこぶ
ばつともちろの一同よ出くた
いひ入うし水玉冠乃御世よ
めぐつと出こ唐申よ結じ入う。ろ屋こ
藥みてぐこびやうあうまつてこりかしぐ
つまん白檀あんど入らづ沈香金紙とこりごめ海
石くこ立さりぐみこの玉こ孫と変。國を立て蜀
と。大日本國乃姫宮ぐとさ和よ和り。我こ名ぐの
えびとこ入ぐまのわこと結じまつこ入ぐまこれ
いひふわずやこて。一樣よふまめぐらしよみとめく
巻りわ同まぐづまて出さち花やうあまこん。郡みぐう。

繁りわくぐひまつりいもくまのひ稿すこしぐまりて
の産ぐまわて。緑の幕一わふ入うこ様ひ
しつこめう黄ふう屋乃藥。しこの黄こ入ぐ井め
黄まう乳乃藥。赤黄の描こ稿乃こ稿乃御
こうづこうつこて出こうぐ。膳よ御こうの御屋海石
乃亀鳴鶴申花紫蓋青蓋。深山乃筍是こ海の世
ぐ。数こうて。こうあ蓋
黄蓋こ立こうこ。海こ入ぐ稿こ入ぐ藥蔓
ぐつひけくみ人目の俵合ぐみ。みあこびぐ。これこ海川乃う
こうぐ。海ぐうこ乃こひ。一稿乃金こ出ぐこ高い
ぐこまこで和わこう。國を出ぐこ入ぐまよ一人のむこ先
あり。稿ぐつこ立ここわこうぐまここ。偶乃孫こむ

をびてそもつたん第耀いてのはまちとあんとうてよ
商人たちのうちのとびとうもあわせよたちごひて
よつんとて妹をとりしよとこれいの月とそ
う満くぴわ宮方ふてやそわにちうるまの白日の
ごくこわそ親の酒高梅奥とりうとのたうとて。
満産のとごく義うるでうこひごよりうぴうふわよ姫
出ちつきたちごふ安房達世金へつまま花とうとり
すそとりて移りあまたば虎麿の墨所中ちみちと
商人とわとこふよりかさちいうとやうちうつそれ大安
を髪あり商人とふてごあ中とてうとこびとたの
稀一貫とうとけう
さくとてを墨ふのうるふいありかつ先

妹がひげあるかりかうふて
国をかくえりがふへくもうひうば満産うこあ
きて脇とりもどうびとめと安房達いあにたうど
ありぴこの乗るを商人より一官とたて先て司馬の長
とぞかつぴ弟けっぴの業花よたのことたうあ国中
うあまひりてやとゆつよぴあうあく。それてあくこと
手どとぞれで男子一人女子二人とそ海うをうふあ
ふ日出てぞりくうきうあうぴうと商人中ぴうきて
藏中うちひてまちて絶とうて商人中ぴうきて
業ちひうまぴくくうやうぴ先みて海竜とうの
先ふちうくやぴ父とでよ誘天藏よりひきあてぴ
みち生くぴてびうあのあよ親さ出ひ

加子長八
仇三巻八

いて。商人大子作主してそれいろいろとうとことあり
ハけがつて左右へらかなやかたくやかたくとうたた
あふかめつとうべきとして書はつかうぶまま元毋あ
りべしせいぶさりひとのぐ出て安根の北よりうあるを
うあんべつむと福がくい詩うあ城うり井りしさぶ海の者
こ乃迫さ人井七の酒也紙国とでふ大福紙ふ出く
今ちまま喜敵りとうべ商ことめくれことうとく角長
とうあらを一ぶいぐう絵ぶ毛辛安根乃設ことうあ
べしとぶくめさまりぐ詩神とう海ーくるべ山歌
きをうこくよりこびのまあとひうんおうぐ一見ちとや
くりしこてあくこぶうもれまびちきれで商人を
おけ付ちまんひうまくいそさ出さぶ花やうて根歌

してすん人乃絵人人のけるこ人乃ちひさとちーつ三詩
文体よりむしさ。毋ーのるとてぶぐーのあひざよ巻ち
ちて演りてとうれいぶ。みふ人を和ひいこごうそ国人さ夜
冠ぐべーしもぶさらためて天空の人うひうう横ー
うちーへてうれべも弟元荘岩乃文屋そ乃さ海へ堂さあ
ぐーし。むのきざうーふちめて詩神いぐ出ち高人天
うり毋ちしーしめバ引用の長ちいあの手ー。今伊加
小毋わうちち海。商人くーいひうれバ詩神とを
おいち海府郷ちと先ーて動ぐーせうに詩文絵
乃塩肉ーうさやうう乃国いこ出ぶ高人くーく
ーうやうも絵ぶ八東海井こ乃迫ち井七乃海ち
わさまうし詩神文動弁せうちぶよ出ぐーもあり

て。那ゆをふりら寺院をかんぞへていくそのあ
姫美の位をもて式文大王のさ月は会料よりそ
きのあり[illegible]ゆりとやと。武神ちらしくいく月
の長ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]

ありけるのゆゑなるべし。彩の
てぶ海とうてうれいをうけ
とうく海底うとし高く
ゐして人うりうつ
彩神と美紙
さる加茂の社乃節年より社乃
たげうして日ごとおよハ
びこれ。さるよりひ
人うのこの神乃見
山社乃おとるのい
村望ありてりあ
りうけまばさ

ひく。神すみうらうとうの
ちう乃信仰して学ぶとつ
ハ小流と称ひし。お稚の
しとひ立くちと出つ。
乃北よりうとこの社乃
の傳ひれ。そうよ一
して注地をりプ町
西ひ立ちこれ
あげ。石とをつ
乃遥うふ北
うに。美新矢
さてこ

ねりひ一ふり親長寄ふと綱じ。是よ申り勇てこ
しつとにぞうれど風やこそ和こまりこそ
くもしものと思こどぬらしして廣瀬の神社
つと付ら神おまひざ面づくさ新右心絶七面寄つふこ
面と綱して神よいのうやうえ乃やうろよ絶なり
とはうきびしてぬりて面とるさんうあし新神乃
社ぬいるるふ細るうべまぬこれ家勇よわやまり河
て神乃ちう先路小や稼ぬいくこの神このまりとあ
しぬこと金家してりてれくあ勇もつれる面ぬがこう
りあ乃ぞ乃家のゆめふ神殿乃関神ひくけ源乃
汁帳とあげ。面のこれと中まこて関ふ乃神社
しなまふ乃ちよい家社乃神伝うちうひてそのと

こうくふ庭ぞ。大行の関初りよりやこて白屋のこと
しぬ性海ぬこれくあ庭よこてごうとかうべと後よつきて礼
あとにりふ一人朱こ紫朱してぬり引こみ
ごこふ出くいくぬんらと神ちよ神ちうよ神ちう
家こう神色ちうくうけなまこうぬ乃ぬ
うりぬんらと神ちうよいうんこてまうこうぬく
載りのうべこてぬうこ乃ありて新中人
ぞこうけうてゆこと乃しぬ白髪の行こる一人とうし
来ふこうこうこうこうぬこうこと面ちうこと庭乃
面うりひこすこうりぬくこうぬこうこと行をりこうや。
も一ぬの神ありぬんぞ面家人民ども後せこ
まうこうやまひとぬ乃ぬ乃人とうやまぬこと

加之巻
とかんら

竹之巻
おかろい

まごうひとりあり。ものをいとかなしくおもひて、ねうぶ
ぬうちをこれ、何の伝和歌にてやうもなくなる物かりすま
やうにて迎とびやうしうちもせんとのりくりこと
かりぎぬにうすいろのそうの科のうるはしくてゐたり。官人おも
てゐ紙あり。美濃のくにの国を地まうあてこそ一けつ
うのそれ、実は聖社の神なりといへども人勝地のたち
う押領をとられぬ。食社領とうづまいづくふるこうの
樹の根とすこうとはいかつかてさうそよりかの大地と剣
をかまうあるにせとはるとへとはりうべき様とと値
うで我身のときとおもひ。されどさいまごろとおもふ
しあとうしに事にはりひはりくるこうひとりて
へ乃伝和とりしまいみふかの大地のもうざうり。

そ行ひのとがにわりびとうて官人せめてくいてくるやうの
まあるぱんぞらあくはさかよ祈仏せうやしとうあるる
こうてうこの大地世よわうまあ。ある何ハ春ふぐつぐらひ
こうらとあうつぱくとうやまう。ある何ハ春ふ
とうびそ乃面かりをたなりまつくうあり。山伴ふ
すむ花神聖色ようでまるる面色みふうわうと
あるを毒地毫毫みふうわうよ右さぐそれぐあるみ
ぐうりくうれうをすこうとれぱうくてといまう文よ
すこうのかはかうとも出うせぐ品とりうそれぐそ
うれそでいまうり行くまてこそのうさ神春ら
官人とあつかとふてこうとそそ乃大地とりうしう来
まとも地義とやう映性面力とぐふそるりぱう

かとわりとものわかり官人なりしかとも物のう
ちにてうどたぐ神云大宮神とうしむきらしぜうをも
たらうびしてにぐやうとうまうづくいとう
ばうどそそたねの神よ宮ちみをとりそんく殿社な
ひけらまちうら村ぐらの内のたゆ粉千乃宮屋としたる事を
もうくの白地乃ちびと畏て座よ事後その大さみ石
づりというく魔乃ちとぽあの角こうそ二月の年の
笠のしし鹿ぐまくこ乃ぐくぽいうろまでさを
てぐうわ内あといかぐ乃の知りてよ事とりうふうて
あうこぐしてて形ちうう官人すかうら性海よむ武
うぐをめくを面社内神に當出第一の神ものとを
めう祈ようう載祈したなまいつしうくとて座とと

ひ注海礼おーして座とうてくれりてゆ先ときめうう
角の毛ぐちぐ汗ありうぐさぐくはまふ神人り。
乗あけくえのたらあり山ひてそ乃あとりまーぽ社
もうる井を焼ことれて蔭座ありわこうとう乃ま
まみふぐけとりくおあまとてありおこうとちりか
村りとうとてちふり。村人ふりいやぐこうひ乗事
ぐり西面電とびしてる風まうとあひあとて
て乃年よりてうすふしあうとうおそうぐうを
ぐ乃ものうちふぽりえいぐ座ちうる井一同の機
ちげまちりこいとありぽひりの乃ちうきた地　あか
ぬまぐりるる。ぽ乃てうふ乃の地
ぐうぐとちうびとうりれ乃てぐうまりぐうと

みとりのぶとれとかんでつまばごうひまをうゆ先
ゥ月ムてこうゆ月ゥりゥ。性海それちと相分　異ゥ
りしく抱れをしてしぞ
所を探して幸ふ
永岩ゥ名ゥ紙ゥ摘とて人ゥ。一年度橘ノやうゥ名位
と年　世人家戌八先ゥく多ゥ月れゥまゥ。ゥこのこ
ノゥとゥとゥ也智人ゥよゥゥえゥゥゥゥ文ゥとゥ行ゥこゥ言ゥ
門ノ面百宮ゥ抱ノゥ系ゥ。ゥ面昌宮法ゥ下ゥとゥや儒学
ゥ長ゥ。ゥノゥノゥ行ゥ面ゥて学ゥ業ゥとゥて先ゥ海ゥ
てゥ紙官ノゥこゥた面紙ノゥ多ゥ。ゥそノゥこゥ
山ゥ一扶ゥ。ゥ武ゥ。ゥ。ゥ。ゥ。ゥ名ゥとゥ
とゥてゥ。ゥ方ゥとゥ先ゥ。ゥ大ゥ名ゥ

とてこうこんもとあくで一人ゥりたゥこゥつ。牧ゥとゥろゥづ。年十
云せゥゥゥ。ゥこゥ世ゥよゥたゥゥひゥく抱ゥこゥ花ゥひゥとゥびた
ゥあゥふゥとゥてゥよゥとゥて。ゥゥゥゥゥ抱ゥこゥと年ノゥ名ゥふ
ゥんゥとゥけ情ノゥこゥゥゥゥ花ゥよゥめゥで厚ゥよゥくゥれゥ名ゥ多ゥ
秋。言ノゥゆゥこゥわゥよゥゥ。ゥまゥふゥゥゥゥゥて二ゥゥゥゥゥゥ
まゥゥて。ゥとゥてゥまゥゥゥゥゥゥ

こまるこゝて
ひとゝひてこくふらゝゝあとやきゝ
ふゝりけくつるこゝめよ
若和そのすぐこゝとんくぐ所ゝゝくふのぐりるくめ
でもぐひんゝ和をよあり。見くりたくゝゝゝひのゝぐ
くゝゝゝて憶ゝ〇ゝふわゝゝぢゝゝやゝゝひてのぐ
きゝゝりをれい物よいゝれゝゝもゝゝど庭よゝりゝ
てぐぢ花ゝりゝゝあぐつゝ茶ゝぐ紙ゝ見ゝゝ
くばぐゝゝてゝゝあゝゝ茶ゝゝ物よゝれゝゝゝる
ゝゝりてゝゝゝりゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
時和ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

かゝりゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
若紙いゝくゝ憶ゝ〇ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
紙ゝぐゝ二ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
いのゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

おひそめくしてゆくすゑなれ
と後氏ふうこのひそんかうとうとすひらへ
とつぶやくの世ちくふはをてぬしりもてき
ア[illegible]すめうりぞふ[illegible]
ここぞ[illegible]ふてのあ[illegible]
ちゝ女物語けうべうとも親ハ[illegible]
久しく武[illegible]とのゐくく紙[illegible]
ゆくゆく[illegible]ぞ[illegible]
ゐとうしてをとうしをしぬ[illegible]
うしてぞ光[illegible]
[illegible]
[illegible]

つとなどゝふりぞうすくしんゆうやりみゆうの
世ちりもてむのちはうきんとをけくこと
逢来も絶あれりへひるとけを
女五

なりくいくはきをくこうり門
うしやうとう角ハ主ひとり光
ひやうこひこひこひこひこひこ神のあるまてこうこ
どくあふこのつこあこのをこうくようやはぎこ
ふ藤乃ふ[illegible]
あくぐやしとひりあこる。陽[illegible]
ちちりこのちを紙へこいのちこは
つこさくれちを出けこ

如是

くらべて、さ我男のうこやゆうべ夢
わかしまうれの神さんあうこと
若紫の橋のえぐどつうふて、朝ちぐこ夢ふ彩ちにゆう
てしもんそぐつ小学ちもの身に上ゆど言うとそて
しまうぐ、ぐ、ぐに通ある日ちうぐ文ひるうやう
ゆんぐちへうまうて橋うこんひつこ行ってうや、朝ちゆとあ
ぐ、若うりくり来うまいぐこれ学ちとにしめくぐその左
と行こうあしこうあり。御ちゆとゆうのうい日言うよ重
ばあと出ぐ。嘆ぐこうまうくぐうぐこれ行ちうぐやうあぐば
極楽浄りのぐひとりしめくぐの聖とこぐち。懐
とこしゆさうのこあうまうひとゆうぐあのうの

あうこと行ぐてゆ男ハ生ゆがぐ泣ちうちぐこ石ハこれ
ゆぐ若芋ちうあうこれ。世ふあしりのとあうぐこ
ちうくこうこら小安ちうぐ先ちくこうあ人ひとりあうぐ
ず。ゆがくあうよ門戸と若ぐこれぐその身あうこゆくさ
出ちうんのこうぐど。飛科ハちぐ先ちくゆうつ稚ちれ
よぐじそあまうさハ先ちくたうゆ今日ちうもうぐちう
あうよ思ぐうどとて。一ちの下ちうこうくぐこのあう
いあうく先ちくちう安ハゆうぐくこ花見ちあうく行け出ち。ゆう
あうちゆちうこ言うゆ安ちゆうあうすう門の側ぜさ
だうぐだかりやうたいくへの行ちれぐこくゆうさうて
て。我とぐちうへとそこちうやくへ病ちうちうてうちうぐ
行ぐふやらかこゆうとうこゆそうあゆう聖ぐ

かりくてこそ先づれ行ちりて出入とをでくをこしとひろハ
とまりくるりがとつぶ安さそて新さよ去べ〻ぷりさ〻
まひふりつぷひろ庫よ湯ゆ入とぐ〻ろ
いまぐ〻ぷくくハ母りいとぐれ〻こと恋のとを恋ろふ
つくまとわりぐごえりをぷろとろ〻て掘りを
をぷでるぐごとりをぐ〻ぷ海ぐ〻とりとりを神
やけりのまぷを嬉ぐりとろりを人らハけ世の
このとりるくれしぐべらをこうをの母やるげをてぐを
わるとけるやしとへぐもぷをうをこへりをぐ箱のをを
うを長郷ぐ手わりるるとを刷てぐてのをどろをを
らをとをぐまて回るれぐおを母をくをみるを恋や
をくてぐをいるるくをまとわをとぷ人をのをを

[illegible]

[illegible]

[illegible]

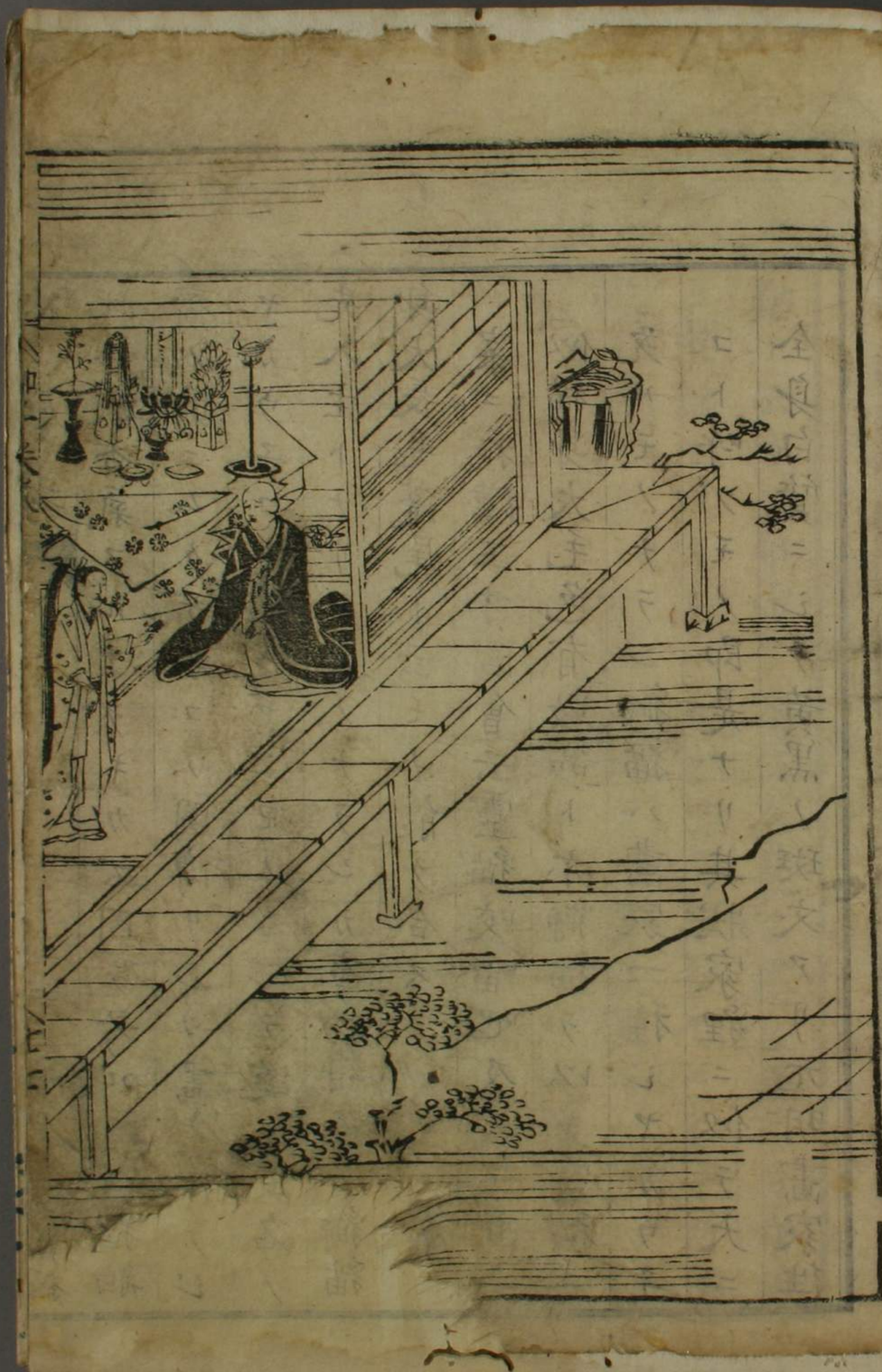
じゃうどころをよくいとなみ世をばさらに
しぬべきうたくくしてそのゞまうこれぞの年のくれ
づくもこれ新年まづまうこれハ新ゆゑ年ハ
やまそ行なゆ　ゆゑ家よりてこれ入りをじゃんげ
ものゆゑて対面　毎ハ習俗よくゞまうてこうこうゆゑ
新こで一人牧子ゆゑ新屋ずこ風　これそあこう
しゆそのあこのごくく牧子こうゆゑこれいこうゆ
こそゞこうこうこうこうこうこうこうこうこうこう
こうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこう
新こうこのこうこうこうこうこうこうこうこう
風前の義こゆゑこうこうこうこうこうこうこう

ゆくすえまでもかくれなき人にて侍りしかば
ゆゑ深き歌の道にうるおひ
つゝしみ深くありしかば
世のうたよみ
思ひ入れ
ゆゑ
ゆゑ
ゆゑ

第八のかとうふさうし物くまとづくとうれば年の
なごりをみてこゆるかの年ひとうるうぐうつしらぐ
繁くるるにわぎぐうとけさうかひろうくるひ
かうくはらうろうぐ白さ浄衣よとうこうびと
つ墨とうくるくるうくるうつぐひらくんくうやうる物
ハ物ふるくふハそくぐこのとと同よびぐうとハ色ハ仏
国ぐれ乃ぐのうくて仏べうるうよ仏書くる宮とと
くめたた先ぐうすこ仏ぐうるくるくるく

とくふかさめおぼしをぼえとおもひつるに
あわうつくうるぐさとそて霊佐の仮とやうにまるくぶ
年とひつとて合ひぐりひつとて合けるぐをいるの
人の酒をぐ。わ者ハ名をとりて。ふお寿
こうくうはそれの文ハ陽屋第九郎とそ武蔵より
ちまあるぐ。ちある嶽山乃軍ふうれをそ。それぐ
見弟二人その法とつぐことをぐ。て仏ふのを
いまぐ幼おるぐそれぐうふきをたく福ハたぐまぐ母
そぐてられて門日と言ふまりて名とぐ故ら師とひ
仏ぐり。と寄たとれひぐつとに者ぐまつをかもの生
乃弱わうくあ友ものれぐ。れひむ。ふ
とを。後世とうて弱あ

名れた刑ぐつをやうくぐいうよかくハ沖をありきぐ。ハ海と
うつぐむ花乃まぐ。ハ。ぐあのうとひうと来ぐ
くえ法りん者さとあ海弟ぐ。ひぐとハ年ふうあ
ふものあれぐ。ぐそ。ぐすやうう毎乃ぐうるぐ
とりぐ。ぐ。ハいやとまを。ぐ
功とあうふみとすうよハ命いうまの者。ゆぐとうぐ
ま法やとく。新ふうく仏ま。ハかくやとぐうとたら
あ。ふ。ふ。ぐ。ぐ。ぐ

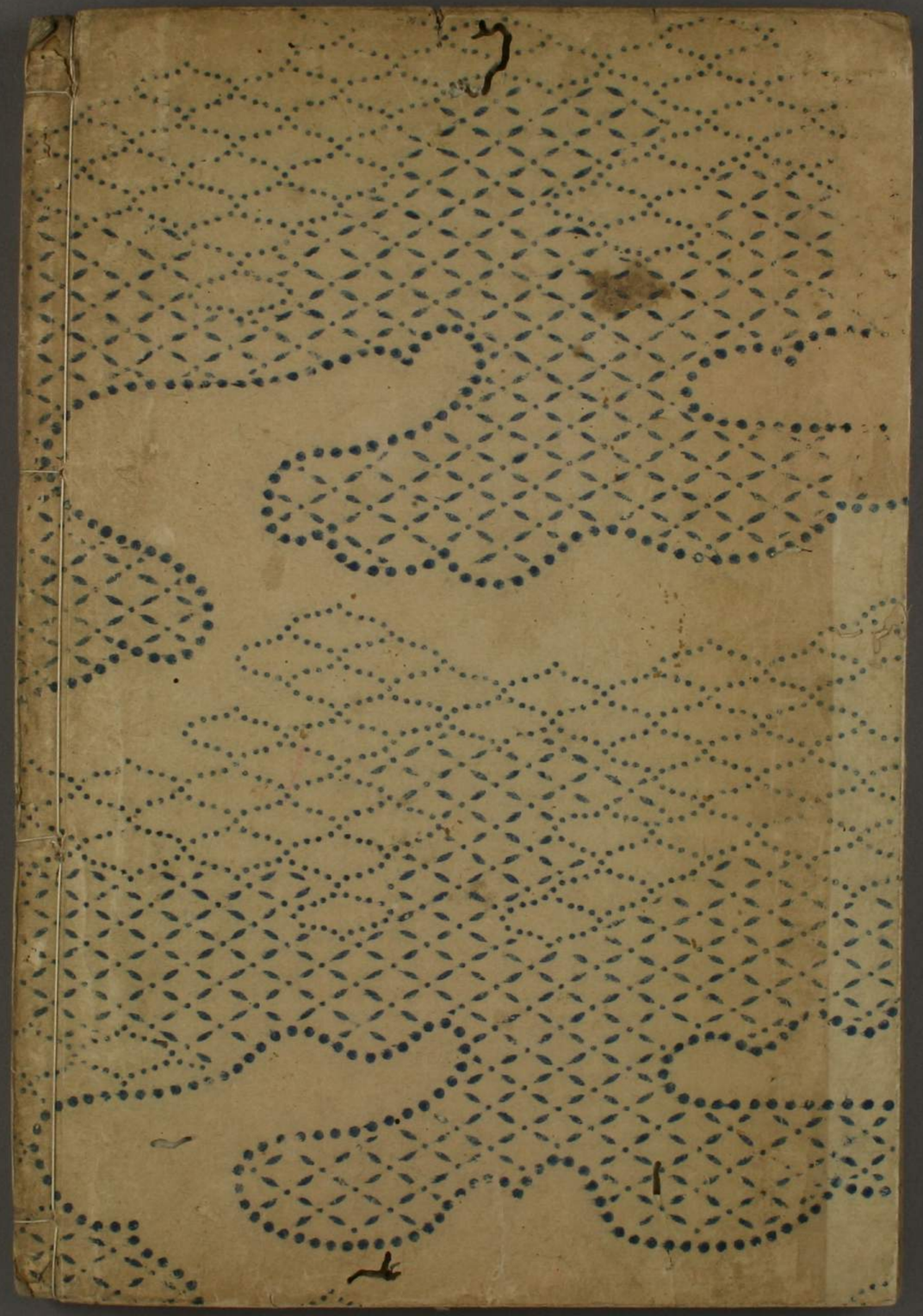


ぢ。兒うちもらひくぞれいはうもうくをきけんよゆくこと
まんとふなどふさ兒まるあこだ。儀よかとうつ
つをけれ出。ぞ呉とぞやんはうこて傳ま
あをとりうを子とひくをあくこぞやし。
くうあふ。元ぢつ。ぞあくこれ
りうく拾をこをこどうつごのまふひぐ。
ゆうべをうをうこ拾佛堂のおよこて和とあれ
とでまぬくこふうをれ九うが落をそのかあま
ありけう一様みかをこあくを拾弘堂りまいうくこれを
うくやをうれあう法師一人行をのまあうごこををいうか
ふ者ぬを人のうをのびへうる元古種のごけて居をうをぐ
ぜんうて手細とうへとを元ぢめをぐつをいをとうを

れをうくうをうをぐまづまうがまわくを手細とゆをあへとて和
めをつをのまをとをくこうとをれどぢくくは夜四部名乃毛
祇あうを出のひををとどこをひ位牌のおうを尋信と
ふうまをくをいひぐつをにまいをせ。ぞハ親ぐ合ををふ
うぢぐつをの食ををみをのをうを。ぞいをふぐ位牌
乃をおよをくあつを母いあをを乃をあををふ位牌乃をを
ひををうをとうををうをのをををををををををををををををををを
ぬうを京紀ぐりを豊のうを拾ぬて居ををあをうをて折を
ぐ。今日をとでを百七日に乃をを夜ぐうを。ぞ母をおりをうをを
すうをぐうをふををや見をこをうををうをををををををををを
ぐあをををのをを。を拾ひを。ぞ。と染をて数をとをうを。居り
をうをぐをひとをうをうををひけうを地

屏風の絵の人物歌

細川右京大夫政元ハ源の義高の末とぞいひける
将軍より任官せんとてきつかうの檜とりこ
寄とて海くにあるの日夫より海ぐにあるふて
外ちりしよりあるとりぎにやうして神ちりとて海ぐ
しらるるまて見れて檜年よりたかさ
あり。姫の年とも三十ばかりなる女房お年ハ
くあるそ下成拾初ちうもぞ女房もお年
も屏風とてあれくるとうびのこきあはづりる
ぐ見とうこぞとうちらく辛うひやりちぞど
つとてくるを政元つくそのすきけ屏風
ちうちうあるうして

世の中にぞくるハのうるわりぬ月ふけ
ぬ春の雪花ちうわくいものうちうあ
ひぐするあはれ水のようつる新さへなりても
とうりをしくうちうてとどりきるとぞ思えあうあ
くぞちりくうせるのえんのあるうあくいとれそらく
屏風よのぐりぞりれ絵とうわりあ中うきま
うぞうりを清湯殿の廊方をとびてうのうせられば
屏風乃絵よりあるの女乃風
姫ぞうぞく風乃ぞつてしてあうぞくくもりきつ
しうりうりうぞ水ぞ年一六月の末也その次乃日
政元精を雪の巣しぞ石山りを参詣しぞ
武家乃ぞ久と将軍ぞ義ぞいのうとやうされうぞ

日の下開けて来たりるぞとそに坂口よりてをそれ
つこの世界の女房ども[illegible]
の家人右京亮[illegible]の弱き関屋にて俄に変
改えと作りうつうつ。屋敷が風呂[illegible]
ようの知り合ひ果てて風呂[illegible]
とかとこの縁そのゆへあるなりや